

## 論文内容の要旨

### 論文題目

A Study on Concept and Determinants on the Performance of Community Health Workers

### 和訳

コミュニティーヘルスワーカー活動の分析方法および決定要因に関する研究

指導教官 若井 晋 教授

東京大学医学系研究科

平成 15 年 4 月入学

博士後期課程

国際保健学専攻

稲岡 恵美

### 第 1 章 緒言

多くの開発途上国では、人的資源や予算の制約がある中で基礎的保健医療サービス (PHC) の普及とサービスの質を向上させるという課題に直面している。その対策の一つとして、コミュニティーヘルスワーカー (以下 CHW と略記する) と呼ばれる、地域社会から選抜、養成した、保健医療サービス普及員の活用が盛んである。CHW については、1970 年以降、報告や研究の蓄積があるが評価は多様で、財源や制度の不備を克服する効果的なアプローチであるとの見方の一方で、CHW の業務中断やサービスの質の低さなど、問題点の指摘も少なくない。本論文では、CHW が、その役割を十分に果たすためにはどのような施策が必要かを明らかにするために、CHW の任務遂行 (仕事ぶり) を左右する要因と CHW 制度の効果を左右する要因を明らかにする。その上で CHW の動機づけおよび監督のあり方の重要性について考察する。

### 第 2 章 先行研究の分析

#### 1. CHW とは

CHW は、時代や地域により異なる役割・特徴・名称があるが、共通して、保健医療行政と地域社会をつなぎ、地域のニーズに応える医療サービスを提供することにより、保健医療水準向上が期待される。

#### 2. CHW の仕事ぶりに関する先行研究

CHW 制度のについては、成果の報告や問題点の指摘があり、制度の評価は様々である。医療人類学において、CHW のコミュニティーにおける社会的位置づけに関する研究がある。CHW は、地域保健行政に監督され西洋医療を提供する一方で、住民の伝統的な病気や治

癒の価値観を理解するという、二つの異なる文化の異なる役割を期待される立場にあり、このことが CHW の活動のあり方に影響を与えている。

### 3. 分析の枠組み

CHW の仕事ぶりに関する個別報告はあるが、理論的分析および評価指標は開発されていない。先行研究を包括的レビューにより、CHW の仕事ぶりに影響を与える事項として、1)CHW 制度の運営管理、2)CHW の技能、3)地域住民との関係、4)地域保健行政との関係、を導き出した。また、これらが、CHW 意欲および CHW の監督のあり方に影響を受けると仮定した。

本章の概念研究をもとに、CHW の仕事ぶりに影響を与える要因として、「動機づけ」および「支援を伴う監督」に着目し、先行理論のレビューおよび、事例研究を行う。

### 4. 任務遂行意欲 (motivation)

意欲の定義および決定要因に関する先行研究をレビューした。ヘルスマネジメントおよび経営学では、環境要因、人間関係、自己実現を意欲に関連する要素とする理論がある。CHW の意欲を向上させるために、これらの複合的な組み合わせの重要性が確認された。

### 5. 支援を伴う監督 (supportive supervision)

監督の定義、概念、決定要素をレビューした。監督には、統制および支援の二つの側面、つまり、規則の遵守と計画実施を管理する統制的側面と、相談を受け問題解決を行う相互支援関係の側面、が求められる。CHW 制度を含む地域保健政策の運営管理について、実施段階における監督、特に支援の不足が指摘されている。

## 第3章 事例研究 -ザンビア首都スラムにおける CHW-

### 1. 研究方法

#### 1-1 事例の背景

アフリカ南部ザンビア共和国は、首都ルサカ市において、市の人口の半数が居住する都市スラム(compound)では、一人の医師あたりの対象人口が 5 万人を超え、保健サービスのアクセスおよび健康水準が低い。地域の女性ボランティアを CHW として養成し、コミュニティーアウトリーチにより、子どもの成長モニター、予防接種等を実施しているが、CHW の仕事ぶりやサービス供給は、地域により差が生じている。

#### 1-2 目的

本事例研究の目的は、CHW の仕事ぶりに影響を与える要因を明らかにし、それに基づいて、CHW の仕事ぶりを把握するための簡易判定ツールを作成・試行することにより、CHW の仕事ぶりに影響を与える、動機づけおよび監督の問題を分析し、CHW 制度の成果を上げるための介入方法を示唆することである。

### 1-3 データ収集・分析方法

CHW の仕事ぶりや成果を計測する確立された手法・指標はない。そこで、グラウンデッドセオリーに基づき、直接観察、インタビュー、グループディスカッションにより情報収集を行った。継続的比較分析法により、カテゴリー化、分析枠組設定を行った。仕事ぶりや成果に影響を与える要因を、活動頻度、ヘルスセンターの関与、コミュニティー集団の状況等 10 のカテゴリーにまとめ、各々のカテゴリーを構成する要因を抽出した。これを指標として、簡易判定ツールを作成しフィールドテストした。データの妥当性を高めるために、非構造化インタビュー、矛盾する情報の追跡および考察、対象地の社会学者によるデータ解釈の助言等を行った。

### 1-4 調査対象者

調査の対象地域は、(CHW)制度を導入した 6 つのスラム地域で、対象者は、関係者分析の結果 CHW に関係を及ぼすことが予想された関係者(地域保健サービス提供者、サービス提供監督者、地域住民、保健行政関係者、援助関係者)である。概念形成には、50 人に対するインタビューと15のグループディスカッション、簡易アセスメント指標の試行に 30 人に対するインタビューを実施した。

## 2. 結果: CHW の活動状況とその背景

調査の結果以下のことが明らかになった。1)6 つの地域の社会経済的状況は類似している、2)CHW の仕事ぶりは差がある、3)CHW の関心事は経済的インセンティブ、地域保健局との関係、地域コミュニティーの支援である、4)従来同地域で実施されていた地域住民による保健サービス提供および保健委員会制度は機能していない、5)住民の多くは CHW の活動を認知していないが、認知している者は住民のニーズを反映したサービスとして評価している。

## 3. 分析: CHW の仕事ぶりに影響を与える 5 つの要因

調査結果から、CHW の仕事ぶりに影響を与える事項を次の 5 つに整理し、各々の決定要因を列挙した。5 つの事項とは、1)CHW の意欲、2)CHW 制度の責任者の関心および支援、3)活動に必要な資金や物品があること、4)地域住民による CHW 活動の認知、5)地域住民による CHW 活動の質の評価、である。また、CHW の仕事ぶりが、CHW 制度の有効性を高め、保健医療水準の向上という効果に結びつくことが確認された。5 項目 38 指標で構成するスコア式簡易判定ツールを作成して、対象 6 地域の CHW を取り巻く特徴を判定した。

## 第 4 章 考察

### 1. 示唆および提言

調査結果から、今後の介入方法について、以下の示唆および提言が得られた。

第 1 に、CHW の意欲を高めるためには、1)経済的インセンティブが必要。理由は、CHW が保健サービス供給に果たす役割および負担は大きく、貧困者の奉仕精神に頼るのは不適切・

非現実的であるため。2) 地域保健局による金銭的インセンティブの調整が必要。複数の援助機関が類似の活動を異なる報酬レベルで実施することが、継続や意欲に影響を与え、活動の停滞につながっているため。3) CHW 採用時に、無償労働であることの承諾を得ておく重要。報酬を期待した者が CHW を途中辞退し、活動の停滞や採用コストが生じているため。4) CHW にとり、コミュニティからの謝辞や謝礼が最大のインセンティブである。

第2に CHW 制度の責任者の関心と支援を高めるためには、1) CHW を監督する立場のあるコミュニティヘルスコーディネーターが、CHW と保健行政側との連絡調整、日常起こる問題の解決をする役割の強化。2) 監督の質を上げるためには、監督者を監督する立場にあるヘルスセンター長の関心と支援が必要。3) 監督者の監督能力(支援を伴った監督の啓発を含む)に関する教育が効果的。

第3に、活動に必要な資金や物品の調達については、1) CHW の活動に対し地域保健予算を配分。2) コミュニティ活動を支援する活動を促進し、地域が CHW 活動を支援する仕組み(収入創出活動など)をつくり、その技術的支援。

第4に、地域住民による CHW 活動の認知を高めるためには、1) 地域権力者の参画を得て、地域住民の CHW 活動の認知を高め利用を促すこと。2) CHW が無償で活動していることを地域住民に認識させること。3) 地域リーダーが CHW 活動を認知し支援すること、が重要である。

第5に地域住民による CHW 活動の質の評価を高めるためには、1) 住民と CHW との良好な関係の構築の促進。CHW の対応が不親切、サービス内容が予防のみで治療が受けられないことに不満が生じており、基礎的な医薬品の処方等を可能にすることで、質の評価を上げることが示唆されたため。2) 保健行政の立場の活用。CHW 制度は、地域住民の関係が密な農村地域で成果を挙げると考えられているが、対象地域は、都市部のスラムである。住民の関係は多少希薄であるが、農村に比べ地域保健行政の存在が大きく影響力が大きい。

## 2. 結論

CHW 制度の有効性や継続性を高めるには、CHW 制度を運営する地域保健行政やヘルスセンターが、CHW の技術や資金調達に加えて、動機づけ、支援を伴う監督を促進することによって個々の CHW の仕事ぶりを改善する対応が必要である。

動機づけのためには、経済的インセンティブの付与、現場での CHW による判断や意思決定を可能にすること、地域や行政による迅速な問題解決が効果的で、これにより、CHW の労働環境が改善され、自主性を醸成することが重要である。また、支援を伴う監督を促進のためには、CHW を監督する立場である地域保健行政および地域リーダーが、本制度を保健行政活動の一環として認識し、活動や成果をモニターし、必要に応じて資金や時間を充てることが出来るような体制づくりが求められる。

ただ、これらは、地域保健行政および地域リーダーの関心だけでは十分に実現しない。市レベル、国レベルといった保健行政のより上位レベル、さらに、保健セクター以外の地域行政が、CHW 制度を認知し、その円滑な実施促進を支援する仕組みの設置が必要である。